

文書分類番号	00	09	03	002	永年	起案	平成	年	月	日	決裁	平成	年	月	日
議長	副議長	局長	次長	副主幹	担当	担当							文書取扱主任		

第 7 回 厚生常任委員会 会議録

開催年月日	平成 23 年 12 月 6 日 (火曜日)	開会 13 時 00 分	閉会 14 時 00 分
開催場所	第三委員会室		
出席委員	関藤、堀、清水、木下、田村、荒木	事務局	中嶋事務局長
	議長、委員外～小野、窪之内		菊井次長
欠席委員	なし		村井主任主事
説明員	別紙のとおり	議件	別紙のとおり
議 事 の 概 要	1. 所管からの報告事項について		
	次の事項について所管から説明を受け、質疑を行い、すべて報告済みとした。		
	(1) 市立病院新収支計画について		
	(2) 滝川市立病院院内保育所について		
	2. その他について		
	なし		
	3. 次回委員会の日程について		
	正副委員長に一任することに決定した。		
上記記載のとおり相違ない。 厚生常任委員長 関藤 龍也 ㊦			

平成23年12月2日

滝川市議会議長 水口典一様

滝川市長 前田康吉

厚生常任委員会への説明員の出席について

平成23年11月24日付け滝議第132号で通知のありました厚生常任委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願ひします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願ひします。

記

滝川市長の委任を受けた者

~~市立病院理事~~

~~高橋賢一~~司

市立病院事務部長

鈴木靖夫

市立病院事務部次長

田湯宏昌

市立病院事務部参事

高橋一昭

市立病院事務部事務課副主幹

橋本景子

市立病院事務部事務課副主幹

法村幸子

~~市立病院事務部事務課主査~~

~~倉本真吾~~

市立病院事務部事務課主任主事

高林宏光

市立病院事務部改築推進室長

配野英夫

(総務部総務課総務グループ)

第7回 厚生常任委員会

H23.12.6(火)13:00～
第三委員会室

○開 会

○委員長挨拶（委員動静）

1. 所管からの報告事項について

《市立病院》

(1) 市立病院新収支計画について

(資料) 事務課

(2) 滝川市立病院院内保育所について

(資料) 事務課

2. その他について

3. 次回委員会の日程について

○閉 会

第 7 回 厚生常任委員会

H23.12.6(火) 13時00分

第三委員会室

開 会 13:00

委員動静報告

委員長 全員出席。議長出席。委員外～小野、窪之内。

委員長 1 所管からの報告事項について

(1) について説明願う。

(1) 市立病院新収支計画について

鈴木部長 (別紙資料に基づき説明する。)

委員長 説明が終わった。質疑はあるか。

- 清水 ① 大幅な減価償却費の変更について計画時に予想がつかなかったのか伺う。
- ② P7、22年度決算と23年度決算見込みでは患者数や診療単価が変わっている。その後はすべて23年度決算見込みで推定している。特に診療単価については推定のしようがなく、こうするしかないのかもしれないが、患者数については18年から22年まででかなり落ちており、今後は一定数を維持していくということなのか。減っていくという可能性は考えられないのか。そうすると収支全体が変わってくると思う。39年度で人口は1割以上減ると思う。高齢化もあるので変わらないという見込みなのか、患者数の将来の見込みについて伺う。
- ③ P6、資本的収支で24年度以降企業債が5,000万円、あるいは1億5,000万円という見込みだが、その根拠を伺う。
- ④ P5、収益の中で改装分について、23年度決算見込みで9,400万円、24年度で1億7,000万円とあるが、計画時との比較を伺う。
- ⑤ P4、累積財源過不足で言えば、今後一度も赤字にならずにいけるということだが、計画時との比較を伺う。
- 鈴木部長 ① 当初19年の基本計画時には事業費ということでまとめて積算していた。特に空調、電気という区分けができていなかったもので、平米当たり幾らでできるかということで、事業費1本で39年という耐用年数をはじいた。これについてはいずれ見直すということを考えていた。地方公営企業法施行規則の第7条、第8条に耐用年数の考え方が示されているので、それに基づいて今回、電気、衛生、空調については耐用年数15年、建物については39年ということで再度計算し直し、収支計画を立てた。
- ② 患者数が減っていることについては、診療報酬の改定、社会制度の変更、経済的な影響などにより全国的な傾向となっている。255人という数字は病床稼働率が81.85%となる。80%を最低確保できれば、何とか病院事業の運営ができるのではないかと考えている。そこを最低限のベースと考えているので、最低この数字は確保したい。この255人を目標、さらに実績ということで計上している。今後の人口減による患者数の減については、人口は減るが患者数の需要率から見るとまだまだ患者はいるというデータもある。そういったことも含めて255人というのはそのような考え方があっての数字である。
- ③ 建てかえ時にある程度医療機器関係も整備したということで、従来の一般的な投資の考え方としては5,000万円から1億円、大きなものであれば1億5,000万円ということで設備投資を行ってきている。減価償却を含めて起債償

還が大きく経営に影響がないという形で考えている。今回5,000万円というのは、買ったばかりなので大きく変更もないだろうということで、それ以降は1億5,000万円を通常ベースとし、これを最大限と考え、特に大きな故障がない限りその中でおさめることで、経営的にも健全経営を図れる金額と考えている。

⑤ 現計画との比較だが、P3に累積財源過不足を記載している。補てん財源があるかということだが、資金不足が現計画では27年に1,730万4,000円発生する。新計画では発生がない。一つの大きな理由として現計画で22年度末における補てん財源が、現計画では4億9,774万7,000円だが、新計画では6億6,108万2,000円とふえているためである。22年度3億3,000万円ほどの黒字だったということも影響している。23年度も昨年を上回る患者数であり、そういったことでの単価がある程度確保されれば、さらに黒字になるかと思う。そういったことも含めて財源も当初の計画の6億3,397万3,000円に対して、8億7,000万円ということでふえている。こういう見直しのスタートから財源的にも従来の計画よりも金額が大きくなっているということが影響していると思う。38年に大きく減価償却がダウンし、そのことで一気に病院事業収支が改善されるということで、39年度以降約2億円の事業収支黒字になると思われる。

④ 従来の計画では、23年度が1億634万8,000円で、新計画では9,400万円ということで、若干起債の額が減ったということもあって、償還額も減っている。

清 水

① P4、23年度に収益的支出が大きくなっているが、このことについて説明願う。

② 新病院の建設ということが、膨大な減価償却を発生させるという意味で収益的収支は連続赤字になっている。今後、市立病院は赤字だという報道がずっとされると思う。経営の健全性を示す数字というのは累積財源過不足である。市民の理解をきちんと得ようとすると、病院の経営状況報告も上手にしなければ誤解を受けると思う。そのあたりの公表の仕方をどういうふうに考えるのか伺う。

鈴木部長

① 特別損失について、建物ができ上がった時点で、古い建物を壊したことで、8億4,018万9,000円の特別損失を計上している。当初の計画では22年において、それがずれ込んだ結果によるものである。

② 市民の皆さんに理解していただける形で説明しなければならないと考えている。病院事業収支が赤字ということで、健全計画をどうするかという指標ではない。あくまでも資金が不足する率が収益に対して20%を超えると健全計画を立てなければならないことが法律で定められているので、そういったことも含めて、きちんと理解いただける形で説明したいと思う。留萌市や深川市は、資金不足があったために、大変な経営状況になっている。資金不足が発生しないような計画になっているが、そうならないように努力していきたい。

清 水

累積財源過不足を見ると、一般会計の繰り出しを減らすということに踏み込む必要はないのかもしれないが、病院事業会計に入ってしまったら、それを一般会計に戻すというのは大変なことだと思う。一般会計からの独自の繰り出しについては、計画との差が出ているのであれば、若干調整する必要があるのではないかと思う。このことについて、24年度からずっと1億8,000万円くらいだが、これを1,000万円でも2,000万円でも減らすことが望ましいのではないかと思うがいかがか。

鈴木部長 一般会計の独自の繰り出しと表現されたが、独自ではなく繰り出し基準に基づいて繰り出しをさせていただいている。交付税という一つの単価を含め、繰り出し基準と合わせて、本来であれば医療機器等も含めて2分の1いただけたところをとりあえず建物の分だけはいただこうということで、基準に基づいていただいている。余裕があるように見えるが、患者数の動向や診療単価、または交付税、診療報酬改定などがどうなるかわからない。2年後もっとひどい状況になれば、その時点でなんとかしてほしいということではなく、ルールに基づいたものはきちんといただいて、その中で病院は病院として努力を重ねた中で、経営をきちんとやっていきたいと考えている。これについては市ときちんと協議をしている。

清 水 改装分というのは独自の繰り出しだと思っていたが、これは完全にルールということで確認してよいか。院内保育分についても同様か伺う。

鈴木部長 基準に基づいたものである。

委員 長 他に質疑はあるか。

荒 木 国保病院についてどのような状況になっているか伺う。

鈴木部長 国保病院の未処理欠損金については、23年3月に前倒しで1億2,400万円を繰り入れていただいた。24年度は1億4,995万1,158円残っているが、その分も23年度に入れていただくことで乗り切っていきたい。これにより未処理欠損金の残額はなくなるという形になる。

委員 長 他に質疑はあるか。(なし) (1)については報告済みとする。(2)について説明願う。

(2) 滝川市立病院院内保育所について
(別紙資料に基づき説明する。)

田湯部次長 説明が終わった。質疑はあるか。

委員 長 株式会社プライムツーワンの会社概要を伺う。

木 下 9年に認可外保育所の運営を開始している。道内では旭川医科大学、北海道大学、札幌医科大学、根室市立病院、江別市立病院など多くの実績を持っている。役員は5名、正職員は368名、パート、アルバイトは154名となっている。本店所在地は札幌市である。主な業務内容は、病院内の保育所、企業内保育所、学童保育の運営業務等である。

田湯部次長

委員 長 他に質疑はあるか。

清 水 ① プロポーザルに4社が参加されて、特にどういう点が評価され採用に結びついたのか伺う。

② 保育所の職員構成について伺う。

③ 派遣を受け入れて、派遣された職員が仕事をするということについて、プロポーザルの中でチェックされたか伺う。

田湯部次長 ① プライムツーワンは1,120点中1,005点、あとの3社は666点から748点ということで、大きく差がついたのは見積書の金額である。プライムツーワンについては一番安い金額だった。点数の構成も1,120点のうち280点を見積書が占めている。保育所の具体的提案については、大差はなかった。

②③ 地元雇用を優先するというのを聞いている。職員の構成は、日中帯保育士3名、夜間帯2名という構成でローテーションしながらやっていくことになっている。

清 水 派遣会社を通じて、プライムツーワンの事業所で働くということがあるのかを

- 確認したか伺う。
- 田湯部次長 職員体制は正職員3名、パート、アルバイト3名、保育士補助でパート1名という中でシフトの体制を組んでいくということで、地元雇用を優先したいということだった。給食については自家調理をしないということなので、派遣等についてはないと考えている。
- 清 水 見積金額で大きく差が開いたと説明があったが、余りこういうことは起きない。こういう仕事はほとんどが人件費である。著しい低賃金で保育士が働くということだと思う。最低賃金を超えていればよいという職種ではないと思う。正職員が3名ということなので、必ず正職員が1名以上常時勤務をするというローテーションが保証されるのか伺う。
- 田湯部次長 職員のシフトのシミュレーションもいただいております、きちんとローテーションを組むことができると考えている。見積金額については、以前に苫小牧市立病院、江別市立病院の視察を行った。江別市立病院は定員15名で行っているが、ほぼ同じような額で運営をしているということで、決して安い金額ではないと考えている。ニチイ学館やキッズコーポレーションについては、本州企業がメインでこの辺の地元雇用よりも高い賃金形態のプロポーザル内容だった。
- 委員長 他に質疑はあるか。(なし) (2)については報告済みとする。
- 委員長 **2 その他について**
- 委員長 委員から何かあるか。(なし) 事務局から何かあるか。(なし)
- 委員長 **3 次回委員会の日程について**
- 委員長 次回委員会は、正副委員長に一任いただくことでよいか。(よし) 以上をもって第7回厚生常任委員会を閉会する。

閉 会 14:00